

ナス

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培					◎	—————	—————	—————	—————	—————		

苗づくりは、高い温度と長い日数が必要ですので、苗を購入する方がよいでしょう。

毎年同じ場所で作ると病気が多くなり、生育も悪くなります。接ぎ木苗を使いますと2～3年で作れるようになります。

乾燥に弱く、根が深く張る性質ですので、通気、排水がよく、保水性があって、耕土が深く、よく肥えた土が適します。

トマトやスイカなどちがって、多少肥料が多くても過繁茂になることはないのです、肥料切れしないように追肥をします。

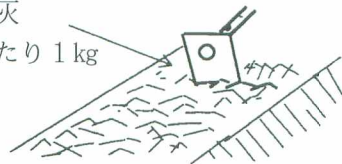
畑の準備

苗の入手

節間がつまり、子葉のついた、茎が太めのがっちりしている苗を選びます。

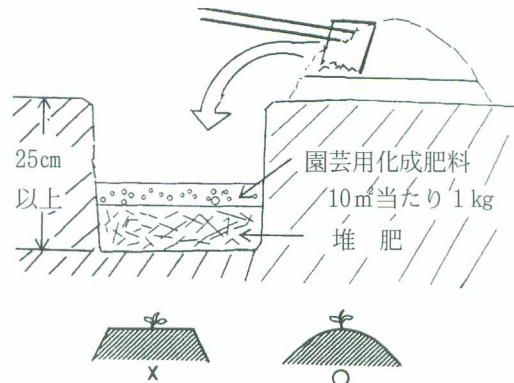


苦土石灰
10㎡当たり 1kg



植えつけの2週間以上前に苦土石灰を全面に施し、土となじませておきます。元肥は植えつけの1週間前に深さ25cm以上の溝を掘って施し、土を2/3ほど戻してよく混ぜます。

その後、残りの土を戻して畝を作ります。

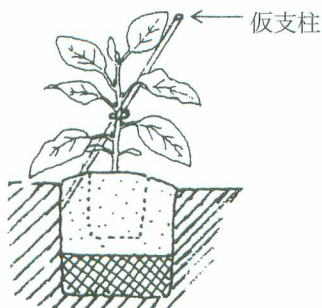


うね立て

畝の中心がやや盛り気味のかまぼこ型になるように作ります。植えつけ時の地温は、17℃以上が望ましいので、うね立てを終えたらマルチをして地温の上昇につとめます。

植えつけ

本葉7～8葉の苗を晴天無風の暖かい日を選んで植えます。植えつけの深さは、鉢土の上に少し土がかかるくらいにします。



1条植えの場合

うね幅70～80cm、株間40cmで植えます。

2条植えの場合

うね幅160cm、株間50cmにして2条の千鳥植えにします。

仮支柱たて

植えつけ後、苗が倒れないように左図のように仮支柱を立てて誘引します。

枝の整理と誘因

活着すると下の方から側枝が伸びてきます。

放置しておくと枝が出すぎて風通しが悪くなり、害虫が発生したり着果が悪くなりますので、一般には3本仕立てにします。残す枝は、最初に咲く花の着いている主枝と、そのすぐ下から出ている側枝の2本です(図1)。

これより下の側枝は早めに摘み取ります。

整枝後、丈夫な支柱(本支柱)を立て、ひも等でしばって誘引を行います。

枝が込みすぎて、着果や色つやが悪くなったら、中央部の込みすぎた部分の枝の間引きをして、各枝に光線が充分当たるようにします(図2)。

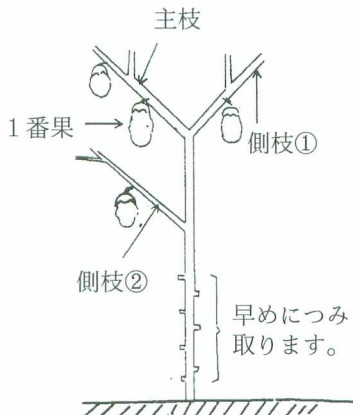


図1 主枝の整理

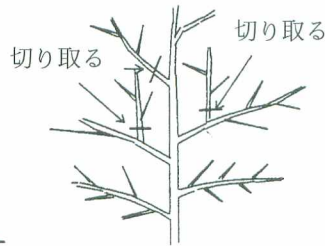


図2 枝の整理

追肥

植え付け後、苗が活着し、生育が始まったら最初の追肥を行います。

その後も樹勢を落とさないように追肥を行っていきます。

更新剪定

夏の暑さで草勢が弱ってくる前に思い切って枝を切り戻し、秋によいナスを収穫しましょう。

生育の診断

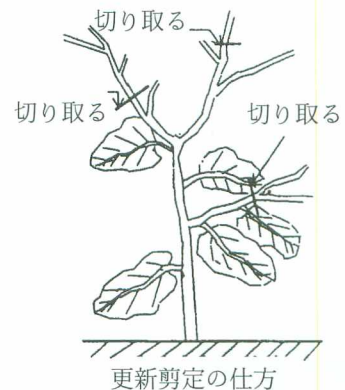
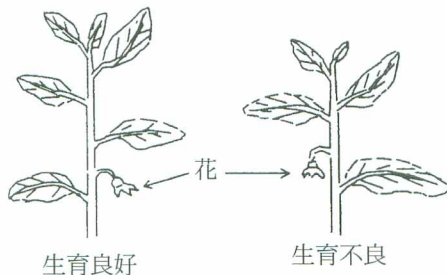
花の付いている部分からナスの生育を診断することができます。

生育の良好な場合

花より上に4~5枚の葉をつけていて、花も大きい。

生育不良の場合

花より上の葉が2~3枚と少なくなってきます。



収穫

早め早めに収穫したほうが木の疲れが少なくなります。

コメント

野菜栽培の基礎知識 鈴木 芳夫 農山漁村文化協会

原産地はインドといわれ、夏果菜(トマト、キュウリ)のなかでも高い温度を好みます。

生育に適した温度は22~30℃で、17℃以下では生育が鈍り、7℃以下に下がると障害をうけます。しかし、32℃以上の高温でも果実のつきが悪くなります。